

## 会議録

1. 会議名	第3回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	平成26年6月2日(月) 13:30~16:00
3. 開催場所	出雲市役所本庁 1階 くにびき大ホール
4. 出席者	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>肥後功一委員(会長)、齋藤茂子委員(副会長)、原 広治委員、福代秀洋委員、板倉明弘委員、野々村学委員、羽根田紀幸委員、村田 實委員、高橋良介委員、堀江正俊委員、布野和弘委員、山岡清志委員、廣戸悦子委員、高橋悦子委員、原 成充委員、西 郁郎委員、吾郷弘司委員 (順不同)</p> <p>(欠席: 飯塚哲朗委員、土江 優委員、福間泰正委員)</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>健康福祉部長、子育て調整監、子育て支援課長、福祉推進課長、健康増進課長、市民活動支援課長、市民活動支援課青少年育成室長、学校教育課児童生徒支援室長 ほか</p>
5. 次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委員の紹介</li> <li>3 あいさつ</li> <li>4 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各部会の協議状況について(報告)</li> <li>(2) 出雲市子ども・子育て支援事業計画について(協議)</li> <li>(3) その他</li> </ol> </li> <li>5 閉会</li> </ol>
6. 議事要旨	以下のとおり
事務局	1 開会
健康福祉部長	<p>(健康福祉部長あいさつ)</p> <p>前回会議以降の国の動きであるが、次世代の社会を担う子どもの健全な育成を図るための次世代育成支援対策推進法等の一部を改正する法律が成立し、4月23日に公布された。これにより次世代育成支援対策推進法の有効期限が10年間延長され、平成37年3月末までとなった。</p> <p>新制度関連では、5月26日に開催された国の子ども・子育て会議において、私立の幼稚園・保育所・認定こども園の運営費である公定価格の仮単価と利用者負担の原案が示された。27年10月に消費税率の上げが行われても、満額になるのが29年度であることから、今回示された公定価格は29年度における仮単価となっている。</p>

	<p>27・28年度の単価は今回示された単価より低い水準となるとのこと。原案では、平均的な定員数の幼稚園、保育所、認定こども園など施設ごとに、新制度の公定価格の総額と現行制度を比較し、10%程度上がると例示している。</p> <p>一方、利用者負担については、教育標準時間認定、いわゆる1号の子どもが受けるものは現行の幼稚園就園奨励費を考慮し、また、保育認定、2・3号の子どもは、現行の保育所運営費による保育料設定を考慮して設定したとの説明である。</p> <p>本日の会議では、社会養護と発達支援の部会の報告をいただき、幼保部会については開催を見送った経緯を説明する。また、事業計画の基本理念、基本的視点、施策の体系など「いきいきこどもプラン」を引き継ぐ形で提案する。</p> <p>本市の子どもにとって最善の利益が実現されるよう、引き続きの協力を願う。</p>
事務局	<p>2 委員の紹介</p> <p>出雲市認可保育所（園）保護者連合会、出雲市自治会連合会、出雲市小学校長会の会長・副会長の交代に伴う委員変更を報告する。3人の委員には、それぞれ前任の方を引き継いで部会にも所属いただく。</p> <p>現在20名中17名の出席で定足数を満たしている。また、本会議は公開で進める。</p>
肥後功一会長	<p>3 あいさつ</p> <p>ここ数年の国の教育施策としてキャリア教育の推進が言われている。幼稚園・保育所の時代から小・中・高・大とキャリア教育を一貫してやっていくべきだという議論がある。グローバル化や若者の就労状況など、様々な社会的背景がある。キャリア教育とは職業教育のことではなく、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するための力を育てる教育のこと。そのために今の6・3・3制で良いのかということまで含めて、様々な「境目」の再検討が行われようとしている。</p> <p>この会議は生まれてから主に就学前までの子どもたちをどう育てていくかという会議。1号子ども、2号子どもといった国で決めた新たな区分に沿った制度設計も大事だが、それよりも、この出雲市の規模や実情を踏まえ、出雲市の子どもたちをどう育てていくのか、成人期の土台としての乳幼児期の在り方（子育て・子育ち）をどう設計し支援するのかという、大きな目標があるはず。この会議で議論すべき内容は、そこに向かって、これまでの仕組みの「境目」を再検討するという視点も含んだものと考えている。</p> <p>国の決めた制度に対する見込み量を立てて、どうしていくかという話だけなら簡単なこと。そうではなく、各地域の実情に応じて、未来に向かって生きていく子どもたちの出発の数年間を、どのように支援していくかという話になった時に、現実の課題</p>

	<p>に柔軟に対応していくために「境目」を見直したり超えたりする行政の力が問われることになろう。市町村によるカラーが出るところかもしれない。もちろん境界を崩すことばかりが望ましいことではないが、子どもたちの育っていかうとする力を支えるという共通の目標に向かって、それぞれの立場の境を越えて議論したい。</p> <p>ちょうど今日の2番目の議題は子ども・子育て支援事業計画で、基本理念や視点などについて意見をいただくという中身なので、より自由な立場からご意見がいただけるものと思う。活発な議論をお願いしたい。</p>
事務局	<p>4 議事</p> <p>(1) 各部会の協議状況について（報告）</p> <p>&lt;幼稚園・保育所課題等検討部会の延期の経緯を報告&gt;</p> <p>5月15日に開催する予定であった部会であるが、当初の予定では国から示された公定価格をもとに経費等の試算を行い、それをもとに確保方策の検討を行う予定であった。しかし、本年3月に国から示された公定価格の資料は、具体的な数字等が入らない骨格であり、その結果、部会を延期せざるを得ない状況となった。</p> <p>詳細な公定価格は数日前に公表されたが、今後予定されている県の説明会を受けて試算作業に入ることができるので、7月から8月にかけて集中して部会を開催する。</p>
肥後功一会長	<p>新しい条件や数値等も示されたので、7月・8月に鋭意進めていくという報告であった。何か質問等あるか。</p>
委員	<p>(質問等なし)</p>
齋藤茂子部会長	<p>&lt;社会養護検討部会 報告&gt;</p> <p>第1回・第2回の部会においては、市の子育てを取り巻く状況の確認と、子ども・子育て計画に関わる事業を、市でどのように実施しているかということについて確認したうえで、必須記載事項の各事業における教育・保育提供区域の設定と、量の見込みを審議した。これらを3月24日の本会議に報告し、量の見込みを決定いただいた。</p> <p>第1回、第2回の部会は県への報告期限などもあって、国が定めた多くの事業を時間のない中で検討することとなったので、第3回では、委員から広く子育てに関する意見を、十分に話していただくことを主な目的とした。あわせて、母子保健分野の必須記載事項3事業と、任意記載事項の3項目を協議いただいた。</p> <p>まず、虐待防止の視点からの子育て支援ということで、多くの意見をいただいた。当部会では、当初から、子どもたちの健やかな育ちを支えるために、虐待のない子育てという視点を導入していて、発生予防や早期発見・早期対応などの虐待のサイクル</p>

ごとに、子どもを取り巻く背景や事業がどのように関わっているのかという切り口や、支援事業が妊娠や出産、その後の子供の成長段階に応じてどのように関わっているのかなどについて検討を進めた。

主な意見を紹介すると、より身近で相談しやすい相談窓口が必要ではないかという意見があった。窓口に手が届かない、窓口に行けない方がいて、制度があるからどうぞというだけでは十分ではない、身近な場所に出かけて行って寄り添うことで解決できることもあるのではないかという意見があった。

次に、各支援者の活動の情報共有、支援方針・支援状況等のフィードバックによるネットワークの強化・充実が必要という意見。地域で支援に関わっている民生委員や主任児童委員などは、いろいろな情報を市や児童相談所に提供しても、その後の支援に関する情報がフィードバックされないとの意見。行政サービスだけではなくて、地域の支援が発生予防の力になるという意見。学校においては地域学校運営理事会が組織されており、自治会・町内会、コミュニティセンター、民生児童委員、保育所・幼稚園、児童クラブ、PTAなど、多くの地域の機関が学校の活動を支援している、一方、市では支所における職員の関わりが縮小しており心配だという意見。見守り機能として町内会・自治会への加入促進が重要であるという意見。問題のある家庭への対応や、支援者同志での情報共有が話の中心になるが、近所同士でのつながりを高めていけるような施策を検討することも必要ではないかという意見があった。

また、支援者のスキルアップのための研修の機会が必要であるという意見。幼稚園や保育園、小中学校では研修が実施されているが、子どもやその家庭と近くで接している児童クラブの職員なども研修が必要であろうという意見。また、スマホ、ラインなどのメディアの普及により、親や親になる前の年代でコミュニケーション不足がみられたり、子どものいじめや引きこもりにつながるケースもあり、その認識が十分でないことから、PTAなどでの研修も重要だろうという意見もあった。

議事2では、必須記載事項である母子保健の3事業について、提供体制の確保の内容とその実施時期を議論いただいた。支援が必要なところにはすべて事業を実施するというものばかりなので、提案の内容で決議いただいた。

議事3では、任意記載事項の3項目を協議し、先ほど話した支援者に対する研修の実施についての意見や、貧困家庭への支援に関する意見をいただいた。

なお、まだ検討していない必須記載の事業については、次回第4回の部会において議論していく予定である。

肥後功一会長

資料1-1の別紙で、部会での意見が整理されている。意見、質問等ないか。あるいは、部会に出席の委員で、部会長の話につけ加えていただくようなことがないか。

委員	(意見なし)
肥後功一会長	<p>こういった部会の意見を受けて、子ども・子育て支援事業計画の中に関連のことを盛り込んでいくということになる。</p>
原 広治部会長	<p>&lt;発達支援検討部会 報告&gt;</p> <p>この部会の役割は、早期からの発達支援の仕組みづくりや支援する側への支援、あるいは地域への啓発などの観点から発達支援のあり方について、総合的に考えていくことにある。</p> <p>これまで3回の部会を開催し、1回目は就学前の発達支援、支援のつなぎ、保護者支援という3つの視点でフリーな形で議論した。主な意見としては、資料1-2の1から6にまとめていただいている。ここでの様々な意見を踏まえて、その後、「気づき」「支える」「つなぐ」という観点から、議論をさらに深めていっている。</p> <p>「主な意見」をご覧いただくと、気になる子どもへの支援を具体的にどうするのかに加え、研修のことや窓口の必要性についても話題が出されている。早期からの支援においては、これまで行われていた健診などの手立てをさらにどのように深めていくのか、あるいは他の手立てとどのように関連付けていくのかという検討や、その支援を次にどのように繋げていくのか、例えば就学時の健康診断も含めて、学校にどのようにつなげていくのかということも一つの課題であると受けとめている。また、連携するためには各機関とどのようにつなぐのかと同時に、センター的な窓口が必要だという意見があった。</p> <p>この回で時間を割いたのは、保護者をどのように支えるのかについてである。特に就学前の子ども支援に関しては、保護者支援と分けて考えることはできず、その両方を視野に入れた関わりが求められる。また、子どもの育ちに対して気になってる保護者へはもちろんのこと、気づかれていない、あるいは気づこうとされない保護者に対してどのように関わるのかというところも検討の必要がある。</p> <p>6つめは、支援のための体制ということで、ここでは、例えば職員の配置基準見直しであるとか、人員配置等のあり方について、意見が出された。</p> <p>それらの話を受けて第2回では「気づき」というテーマで進めた。これまでもいろいろな気づくための制度があるわけだが、それらをさらに精度を高めていくことと、関連する機関や制度にどのように繋げていくのかについて議論した。気づいたまま、不安のままではいけないので、不安を安心に変えていくためのシステムや事業を整備していく必要があることや、先に述べたように、保護者の理解が得られない場合でも、保育所・幼稚園・学校において支えていくことが大事であるから、子どもに関する状況や、園や学校の考えを保護者に適切に伝えていくことで、保護者との信頼関</p>

係を深めていくことから始めていくという意見もあった。

保護者への支援体制では、相談や支援の窓口を設置しわかりやすく広報するとともに、専門家（機関）と関連して行う新たな事業の必要性が示された5月に、「支える」をテーマにして3回目の部会を開催した。視点としては、子どもを支える、保護者を支える、支援者を支える、地域で支えるということであるが、保護者や支援者、地域の全てで子どもを支えるためには、市としてコーディネートしていく仕組みが必要である。

また、3歳児健診以降、5歳児の年中児発達支援事業もあるが、実際には就学前の就学時健康診断まで時間が空くため、その間、気になる子どもについて、園として相談できる場がほしいということが挙げられた。

支える場の拡充では、幼児を対象とする通級指導教室の充実の声が多数あった。充実という意味は場を増やしていくということや、現在配置されている通級指導ヘルパーの職務の改善など、人の配置のあり方の検討のほか、小学校の通級指導教室の先生が、保幼小を「つなぐ」という意味でも、幼児の指導を行っていくことが必要でないかという議論もあった。

地域で支えるという点からは、一生涯にわたるような拠点が地域ごとに必要ではないかということで、現在実践されている事業や活動をどのように発展させていくのかについての検討が必要になってくる。

この拠点づくりについては、次回の「つなぐ」というテーマで議論する部会の中で意見を聞きたいと考えている。

肥後功一会長

3回の部会を「気づき」「支える」「つなぐ」というテーマに沿って展開していただいて、特色のある取組みだと思う。

この部会だけが、いわゆる量の見込みということを問題にせずに展開している。いかに良いシステムでも、どれくらいのパーセンテージで気づき、今ある通級指導教室とか様々な療育の装置、それが十分なのか、あるいは配置が十分なのかというところの検討も、おそらく理念だけでは済まないところがあると思うが、そのあたりについて何か量的な検討をされているのか。

原 広治部会長

今は意見を出していただいている状況であり、その中で例えば、現在の通級指導教室等の設置校や先生方の意見を踏まえながら議論している。そのうえで、先ほど申し上げているような意見が出てきているということは、もう少し幼児教室を増やす必要があるのではないか、あるいは質的改善が必要ではないかという議論があるが、それをいくつにするかということには至っていない。

肥後功一会長	<p>診断名そのものが変わっていくという点もある。昨年、世界的な基準が変わったのに伴って日本でも検討されて、今まで何々障がいと言っていたのが、何々症というように、例えば注意欠陥・多動性障がいと言っていたのが多動症という名前がついている。症となるとこれまでよりも慎重に診断が行われるといったことがあるかもしれない。そうした時に量の見込みがどうなるのか、減ることはないような気はするが、特に保育や教育の現場については、そういう子どもが何人いるから、どういう基準で加配するのか、直ちに保育や教育の質に関係してくる。出雲市では「気づき」「支え」「つなぐ」という中で、どのような装置を今後考えるのかというのは、重要なことだと思う。ぜひ、数だけではないが仕組みの議論もいただければと思う。他に何か意見はないか。</p>
委員	(意見なし)
肥後功一会長	<p>(2) 出雲市子ども・子育て支援事業計画について (協議)</p> <p>次に、市の子ども・子育て支援事業計画をどのようにしていくかという議論に具体的に入る。本日は、第1章から第3章について意見をいただく。第4章は具体の中身に入っていくので、その手前までということ。</p>
事務局	<b>【資料2 第1章の説明】</b>
肥後功一会長	計画の対象をおおむね18歳とした理由は何か。
事務局	<p>子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援施策は、13事業の中で放課後児童クラブがあり、これは小学生が対象であるので、就学後の子どもも対象となるが、基本的には就学前の子どもが中心となっている。その他、出雲市では「いきいきこどもプラン」を引き継ぐ計画にも位置付けるとしているので、児童福祉法の18歳までをおおむねということで記載している。</p>
肥後功一会長	青少年健全育成などとは関連してこないか。
事務局	関連する他の計画ということで載せている。
肥後功一会長	就学前のところに重きがあるということ。
事務局	<b>【資料2 第2章の説明】</b>

肥後功一会長	アンケート結果は、ここに関連付けて書くのか。計画書は本編、資料編という形になると思うが、この部分は資料編を引用して書くということになると思うが。
事務局	アンケート結果で洗い出された課題等について、この状況と課題というところにもピックアップして記載するようになると考えている。
肥後功一会長	この書きぶりは、市のこれから5年間のあり方について、一定程度予測値を立てるような話でもあり、そういうところに向けての施策のデータの根拠になるところでもあるので、後の施策の柱として必要なデータで、ここで書いてないことがあるといけけないので、お目通しいただいて、こういう状況であるということ述べたうえでの施策ということになるので検討いただければと思う。今後、具体的にみていくが、今日は柱建てがいかかかということに対し、意見をいただきたい。
委員	(意見なし)
事務局	<b>【資料2 第3章 (P5~7) の説明】</b>
肥後功一会長	<p>基本的には、いきいき子どもプランの構造を引き継いでいく形で、基本理念とサブ理念2つという形での説明であった。</p> <p>次世代育成を踏まえてということになっているが、書き方として社会をどう実現するかということ、そのための環境をどう整備するかという話になっている。そういう話で良いのかなということだが、子ども・子育て支援新制度からいくと、環境整備ということで、子ども自身や親自身、あるいは家庭環境を支えていこうという理念で良いかなと思うが、もし、教育の仕組みとなると、こういう子どもになるように育てようという理念がでてきて、子どもに向かって計画が作られるが、ここは社会の実現で、その環境整備ということで、ここらあたりが教育の考え方と違うと感じた。</p>
福代秀洋委員	7ページの表現だが、子ども・子育てをめぐる環境は依然として厳しくと書いてあるところで、ずっと読んでいくと何か社会が悪いという感じを受ける。確かに核家族化とか地域のつながりの希薄化ということで厳しいということは分かるが、逆に、保護者が子育てについての第一義的責任を有するということが書いてあるが、全てを社会でという限界があると思う。そういう中で、例えば、保護者にもう少し頑張ってもらおうというようなことがあるのか、ないのか、ないのだろうかという気持ちがある。質問としては、依然として厳しくということも、家庭や個人によって差があると思う



	<p>が、こういう見方で表現して良いのか。あと、保護者にもっと頑張ってというようなことは書かなくて良いのか。</p>
肥後功一会長	<p>どういふ論調で書けば良いかという、根本のところ意見をいただいた。</p>
事務局	<p>子ども・子育てをめぐる環境が依然として厳しいという内容は、国の基本指針からもってきた部分もあり、また、先般のアンケート調査でも子どもが病気の時に預ける所が少ないなど、また、核家族化によって保護者が孤立感や不安感を持っているとか、もちろん保護者がそういう中で、例えば地域の子育て支援センターなどに一歩踏み出していただければ、地域とのつながりもできると思うが、そういうところから依然として厳しくと表現した。</p>
肥後功一会長	<p>少しプラス思考で書き始めると良いと感じる。社会的に厳しい状況はもともとだが、出雲の國づくり計画に書かれているものは、良いイメージで書いてある。そういうところを足掛かりにしながら書く方が良い。出雲市らしいプランになると良い。</p>
齋藤茂子副会長	<p>部会で一番強かった意見は、保護者の責任もだが、地域こぞって子どもたちをという意見。関連する計画ということであるが、福祉計画、まちづくり計画、障がい福祉計画と関連するようところがあつた方が、各委員の意見が反映できると思う。あと、思春期や若者の居場所づくりというところで少し強調されているが、医療との連携とかも不十分な状況もあり、妊娠する前、結婚する時期、その前くらいからの対応も少し視野に入れて取り組みが行われると良いと思う。</p>
廣戸悦子委員	<p>就学前の保護者の話を聞いていると、転勤族の母親が多数いて、出雲市は他と比べて子育てがしやすい、子育てをする環境が整っていると言われる。例えば子育て支援センターのような所が、他ではこんなに整った施設がないとか、ファミリーサポートセンターにしても、困った時に助けてもらうというのが分かり易くお願いできるようになっていると言われる。</p> <p>ただ、いろいろなことを自分で探して出かける人は良いが、そうでない人がたくさんいる、保育園に行けば保育園の先生の手を借りて子育てもできるが、そうでない人たちにきちんと伝えることが何とかできないものか。目標を上にするのにこしたことはないが、子育て環境は十分にできていると思う。もっと良くするというのは分かるが、そこにみんなを届かせてあげるといふ方法を考えていけたらと思う。</p> <p>いろいろなところで子育て中の人に関わるが、子どもの時に父母に十分に愛されずに育つた、虐待を受けたとか、いろいろな意味で母親に良い子育てをしてもらえなか</p>

	<p>った、子どもができれば幸せな家庭を築きたい、そういう思いを持って子育てをするのに、どうして良いかわからない。自分が良い子育てをしてもらってないので、どうしたら子どもが幸せになれるのか、どうしたら楽しい子育てができるのか分からないと言われる人がいる。そういう時に、いろいろな話はするが、子ども時代に愛されていないということは、とても苦しい事だと感じた。それをどうしようというのは難しい話だが、話を聞いてあげて子育ての話をするとか、こうすれば良いということではなく、当たり前の子育ての話ができる人が、もっとたくさんいると良いのかと思う。</p>
肥後功一会長	<p>施設や設備、仕組みをどう整えるかということも大事だが、そういうものへのアクセスしやすさも考えていく必要があるということであった。また、乳幼児期が人間性の発達の大事なところであり、そのところで様々な市民がいろいろな問題を共有できるような組織を作っていくと良いということであった。</p> <p>これまでの意見を踏まえ、プラスの面や明るい面も含めて、あるいは市民の積極的な参加を中心に置いたような書き方という指摘をもとに事務局で検討願いたい。</p>
事務局	<p><b>【資料 2 第 3 章 (P8~9) の説明】</b></p>
肥後功一会長	<p>基本理念があり、その下にサブ理念が 2 つあり、最初のサブ理念の下に基本目標が 3 つあり、2 番目のサブ理念の下に基本目標が 2 つあり、その下に基本施策が結びついていくという形になるが、その全体の体系からすると今の視点というのは、どういう位置づけになるのか。</p>
事務局	<p>前回のいきいきこどもプランでも 3 つの視点で考えていた。基本理念、基本目標、基本施策、取り組み内容という柱があるが、それぞれの内容を考えるうえでの共通の考え方として、視点を置いた。</p>
肥後功一会長	<p>少しわかりにくい。理念があって、サブ理念があって、基本目標があり施策があるというのは分かるが、なぜ視点というものが必要なのか、理念より上なのか、角度が違うのか、わかりにくい。前のプランの時に一定の必要があって置いたのだろうが。</p>
事務局	<p>前回のプランにおいても、国が基本指針を定めており、その中で基本的な視点はこのように考えると、子ども、子育て、親育ちなどを定めており、それを前回は載せている。今回のプランもいきいきこどもプランを引き継いだ計画と位置付けているので、同じように視点を置いたところである。</p>

肥後功一会長	<p>理念の次に置いてあるから大きな内容で、全体のプランを作っていくときの前提として置いてあるという意味だろう。理念と視点の関係、視点の位置づけがよく分からない。他に意見あるか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>
事務局	<p><b>【資料 2 第 3 章 (P10～11) の説明】</b></p>
肥後功一会長	<p>ここまでくると市の担当する課などの中身が少し見えてくる。サブ理念 1 は、子ども、親、それぞれの個々の主体の発達に焦点があててある。サブ理念 2 は、家庭の支援ということ。これに基づいて第 4 章から施策の内容に入ってくる。</p>
堀江正俊委員	<p>基本目標 I の子育て力・教育力のアップで、2 番目にある家庭や地域の教育力の向上では、埼玉県が力を入れている。困窮家庭へのやり方だったようだが、地域挙げて、大学生によるボランティアを活用して、96%くらいが高校へ進学したとのこと。地域にいろいろな力を持っている人がたくさんいるので、そういう地域力というのも一つの方法だと思う。</p> <p>大津では、おさらい教室というのを夏休みにやっている。コミセンを使って学校を退職された先生にお願いし、1～3 年生で 1/3 の子ども 100 人くらいが参加している。そのような地域力を使うというのも大きな力としてあること。</p> <p>基本目標 V の子育てを応援する地域づくりの子育て支援のネットワークづくりであるが、ネットワークの地域の子ども会が成り立たなくなっている。子どもが少なくなることや、参加されない傾向もあって、世話をする保護者も苦労している。こういう時期において、これから何らかの形で、母親と子どもが一緒にのサロンを、どの地域もしているだろうが、そういう形を考えて、親同士をつなぐ方法で、方法を研修しながら、やっていってはどうだろうか。サロン事業で母親たちが友達になると、子育ての良い案が出てくる。専門家が言われる事も良い事だが、親と親がつながる勉強会のようなサロンができると良い。</p>
肥後功一会長	<p>Ⅲがこれで良いかということは、次の第 4 章の具体の施策に何がつくかに依存しているわけで、総花的に必要なことを書くというよりも、どこに集中して経費を投下して、この 5 年間でやっていこうとするのか、そういうメリハリが必要。</p> <p>地域の子育てのネットワークは、補助金どうということよりも、子育てのグループをどう活性化していくかという、活性化の呼び水としてどうするかということかと思う。何かをしてそれに向かうだけではなくて、やりたい活動をできるような施策を上</p>

	<p>手にやっていくということも考え方のひとつ。そういう視点からの意見については、第4章が出てきてはじめて議論していくことになる。潤沢な予算ではないので、ある意味では重点や柱をきちんと作って議論していくことが必要。</p>
堀江正俊委員	<p>いきいきプランの最後、子育てを支援する生活環境の整備の中に、子育ての経済的支援というのがあるが、今度できた日常生活自立支援法の関係で、先般、大変喜んでいただいた方があって、こういう制度の情報を提供していくことも大事ではないか。育英会でも大学進学だけでなく在学中においても育英支援制度があるし、保育士や看護師などの資格をとる際にも経済的支援制度があるので、そういうことによって困窮の連鎖が起こらないようにということと、制度を知るための相談窓口手の届かない人が多いが、それをなくしていくことが必要。正面きって相談に行くということも難しいので、教育の場所が良いのか、保育の場所が良いのかわからないが、相談窓口保護者が行きやすく、手が届くような考え方も大事だと思う。</p>
原 成充委員	<p>これから具体的な内容に入ってくると言われた、財源の話もあった。これから具体的な提案が出てくる、それに対して行政側がなりませんということも出てくると想像するが、そういう流れになるのか。無条件というのはありえないと思うが、どこまで許容範囲があるのか。</p>
健康福祉部長	<p>基本的には、望ましい姿は必要であると思う。その中で、予算でできる部分、地域で支援いただく部分があるかと思う。そういうところを、どのように勘案するかということになるかと思う。したがって、具体的に言うと、市が負担する施設整備等については限界が出てくる、いわゆるソフト面の取組みについては、可能なかぎり様々な関係の方の協力を得て、仕組みづくりというところは進めたいと考える。</p>
原 成充委員	<p>先ほどから聞く話だけでも、予算的な問題がかなり心配される内容になっている。どこまで踏み込んで良い話になるのか、ならないのかということ。以前にも話したが、市長からこういう方向で議論してほしいということは聞いていない。例えば我々が協力して事業を展開するのはソフトの話だから、いくらでも協力できるかもしれないが、そこにハード的なこと、あるいは予算的な問題が入ってきたときに、どこまで議論ができるのか。これからまた話が出ると思うので、その機会に質問する。</p>
西 郁郎委員	<p>ソフトの部分ということになるが、4ページの基本的な課題を見ても、保育所に対するプレッシャーがかかってきていると思う。もちろん保育所だけで子育てはできないが、保育所は保護者との関係の中で5年6年と付き合いしていくわけで、連携がとり</p>

<p>吾郷弘司委員</p>	<p>やすい中で、問題にあたらなといけない課題がたくさん出ているわけで、そういう意味でだんだん気が重くなってきている。</p> <p>先ほどから、同感しながら聞いていた。先ほど、これから後はどうなるのかという話があった。これから後のことは、今後の会で順次解決されていく問題だと思うが、これらのことが、最前線で頑張っている人にフィードバックされていくのか、ここが全てではないかと思う。平成17年に行動計画を示し、22年に後期の行動計画を示しているが、こういう大事な情報が、現場で一生懸命頑張っている人たちに届いているかどうか、大きな不安を覚える。</p> <p>地域の子育て機能の低下ということが出ていたが、例えば地域で子どもたちを育成していく、これは市内でもたくさんあると思う。児童クラブというポジションで出ているが、自治会などでは子どもたちのための育成事業を頑張っていて、そういう情報発信はしているつもりだが、世間全般に受け止めていただけるような雰囲気がないのかなと、それが地域の子育て機能の低下というところにつながっている、そのものではないかと思う。ここに示されるプランの実現を目指して、これから一生懸命、協議をしていかなければと思う。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>今の話は、実際のプランニングにも重要なことで、こちらから枠組みを決めて、予算を決めて、上から決めてなんとなく使うという話ではなく、実際に動いているものもたくさんあるわけで、現場の事情に即して上手にそれを支援していくような形になっていかないといけない、そのためにも現場の状況について、今、様々に意見をいただいているので、施策にも反映させていきやすいのではないかと。</p> <p>総花的に、理想的なことを並べて、全部に予算をつけてということはできなくて、国の予算なども効果先行型になりがち、実際に効果があがっているものに、後から予算がつくという形になってきている。行政の仕組みも変わってきて、国全体が予算ありきで動く体制ではなくなりつつあると思う。</p>
<p>布野和弘委員</p>	<p>もう少し親の責任の部分を明確にしても良いのではないかと、地域の前に親としての自覚というか、離婚とか再婚とか、家庭の中で子どもたちがいろいろなストレスを抱え込んでいる中で、そういったことを、両親もいると思うが、そのあたりをどのように考えているか、地域の情報として、たぶん隣近所も分かっていると思うので、昔と違っておせっかいな人が最近いなくなって、たとえば、我々民生委員や主任児童委員がお世話し過ぎというところもあるかもしれないが、最近、怒られたこともない子どももかなりいて、親の自覚がない、そういうところの指導というか、学校の中で、子ども会ということもあったが、昔ながらのせっかく良い文化伝承があるのに、それ</p>

がだんだん絶えてきたというところもある。もう少し子どもたちに地域というものを教えたいが、せっかくの良い人脈が地域にうずもれてしまっている状況もあり、子どもたちはそういったものを知らないまま都会に出て行って、戻ってくるとまたストレスがたまって、結局仕事に出られなくて家の中にひきこんでしまうという事例もかなり増えている。そのあたりをもう少し、子育てから親としての責任とか、性教育もそうだが、もう少し踏み込んでやっても良いのではないかなと思うが、この部分が危惧するところである。昔の時代背景と違って、今は何でも欧米化している。何でも欧米に近いような考え方でやっている気がする。せっかく日本の風土というか、四季折々の素晴らしいものがある中で、例えば幼稚園に行くのにもほとんど自動車で、3年間だけでも朝一緒に歩いて幼稚園に行って、四季折々の風土を感じて、コミュニケーションの中で子育てをしていくという、そういうことができる土台があるのに、それをしないで、車社会に浸かってしまっている。

例えば、せっかくお金をかけるのであれば子どもは3歳までは家で育てる、そのかわり補助金を出すという形にするような考え方はできないものか、そういう夢のある他にはないような、出雲市の子育てプランがあると良い。そのかわり地域はバックアップしますよと、いろいろな人が協力をし、例えば夏休みに寺子屋的なことをやったり、今頃の保護者は体験が少ないので、地域のいろいろな人を活用した活動の中で教えてもらう雑学だけでも、子どものこれからの成長に役に立つと思う。今の出雲の子どもを見ていると、自然という大パノラマがあるのに、使っていない状況があり、もったいないと思う。子育てサロンの話もあったが、素晴らしい子育て環境で、懇切丁寧にやってもらっている。ただ、それ以外に最近父子家庭、母子家庭、いろいろな親の関係で、子どもに影響が出ている面が垣間見える。これをなくすためには、親としての責任や結婚した以上はどうあるべきなのか、子どもが産まれて我が子をどう育てるかという点などを自覚してもらう必要がある。それを親に分かってもらうための働きかけは地域なのか、学校なのか、行政なのかもしれないが、よろしく願いたい。

肥後功一会長

国の基本指針にも親の責任は書かれているし、基本目標 I の基本施策 3、次代の親の育成のところに記述していくような内容である。大事なのは、日本のどこでも書かれるような施策ということよりも、この地域に今あるものを生かして、この地域ならではの子育てを支援していくという視点もいるのではないかという指摘であった。

高橋悦子委員

子どもや子育てに関していろいろ意見を伺って、たくさんの方々我真剣に考えられていって、そのような中で私たちは出雲で子育てしているのだと思うと気持ちがあたたかくなった。子どもを育てながらフルタイムで仕事をしていて、子どもが小さい時から小児科の先生や看護師さん、保育所や幼稚園の先生、小学校に行くと小学校の先

	<p>生や地域の方々、たくさんの方に支えられて子どもを育ててきた。今も子育て中だが、出雲市のプランを作るにあたって、みなさんの考えがいろいろ盛り込まれていくということが、実際に小さい子どもを育てている親のところには届いていないのではと感じる。自分もこういう素晴らしいプランがあることをよく分からなかったので、今、新しいプランを作るのに関わらせていただいております、職場の同僚や友人などに話をし、子育てをするために、こういったことでみなさんが支援してくださっていると伝えていかないといけないと感じた。</p>
肥後功一会長	<p>施策のアピール、発信力のある施策ということの必要性についての意見であった。限られた予算を使う中、発信力のあるプランになると良いと思う。</p>
廣戸悦子委員	<p>私の子どもが中学校の時に学校が荒れていた。いろいろ大変なことがあって、先生たちも大変だったと思う。一生懸命な保護者は、親同士がネットワークを組んで子どもたちを見守るということをされたが、そうでない親もたくさんいた。</p> <p>今、その子たちが子育て真最中の年齢である。子どもを見ていて、時々不安になることがある。中学校時代の友達と連絡をとりながら、いろいろ話をしているが、良い子育てをしている子もいれば、中学校時代に親たちが十分に手をかけてあげられなかったのではと思われる子どもたちの中には、少し不安定な子育てをしているのではと感じることがある。また、父親になった中には結婚して親になったというだけで他の友達よりも少しえらいみたいな、何も子育てに協力しないけれども、自分が親になったというだけで自分はえらいのだという勘違いをしている人たちもいる。今、子育てに協力的な父親がたくさんいるという話を聞く中で、もう少し育児に協力するような父親プランというのが必要ではないかなと、最近の若い人たちを見て思う。</p> <p>また、小学校の時には子ども会があって親同士が年に何回か親子で集まっているいろいろな活動をするということがあるが、中学校になるとそれが無くなる、親同士が顔をあわせるということが、あまり無いようになる。中学校になっても親同士を結び付けるような、子育てを一緒にできるような、そのようなものがないかなと思う。</p> <p>もう一つ、私の家には小さい孫がいるが、周りには同じくらいの子が全くいない。近所にも若い人がいる家もあるが、若い人が都会に出ている家がほとんどなので、孫ができた時に周りに悪いような気がして、あまり外に出ることをしなかった。あるとき近所の人から、おたくの孫を見ていると幸せな気持ちになる、周りのみんなで楽しく成長を見ていると言われて、それからは連れ出すようにして、周りから目をかけ声をかけてもらうようになった。先ほどから地域の話が出ていたが、こういうところが一番基本的なところかなと思った。</p>

肥後功一会長	<p>その地域ならではの空気感のようなものが計画の中にあると良いという意見であった。</p>
羽根田紀幸委員	<p>町内会があっても子どもがいなくて、町内会として子ども会が成り立たない地域がたくさんあるのではないかと。それを越えた枠組みを作っていないと子どものサークルはできないのではないかと。私の町内でも子どもがほとんどいない。高齢者が多くなって運動会なども参加できないし、子どもが集まるようなことになってない。それで、最近では町内関係なしにラジオ体操の会を作り、これが機能をしはじめた。下は3歳から上は90歳くらいまで、夏休みから始まって、夏休みが終わっても続けている。そういう町内を越えた枠が、ある程度必要ではないかと思う。</p> <p>昔と比べたら学校の生徒数のバランスが違ってきている。どんどん増えるところと、どんどん減るところがあって、昔の感覚でいうと全く違う。増えているところと減っているところが、昔と逆転している。となると同じことをやっても、かなり地域格差が出てくるのではないかと。</p> <p>学校に行って何か話すときに、これで伝わるのかなと思うのは、例えばPTAの集まりとかで、残って話を聞く方というのは1割くらいだろうが、その方はいつも残られる方で、残らないのはいつも残らない方、本当は聞いてほしいのにという方は全く参加しない。その繰り返しで、まだるい感じがする。</p> <p>そうすると、いろいろな施策もこれからの問題だろうが、総論は良くて各論になったらどうするのか、難しい問題だと思う。具体的な方法としては、二つあって、何々手当のようにお金をだす方法と、例えば予防注射などに手当をつけるというやり方、他県の市町村例をみると、お金の場合はうまくいっていないところが多い。予防注射に手当を出すというやり方のところはうまくいっている。それは制度としての情報がうまく伝わっているかいないかということも関係しているのではないかと。物として与えればいやでもその手当はそこへいくわけで、お金で与えれば親のことで使うこともある。そういう方法に関して考える必要があるだろうし、アパートとか情報が伝わりにくいところが多いところと、昔の良い意味の地域力が残っているところでは、情報提供も同じやり方ではだめではないかと思う。</p>
村田 實委員	<p>確かに地域がずい分変わってきたと思う。地域をどういう視点でとらえるか、町内会という視点でとらえるか、もっと大きい視点でとらえるか、いろいろなとらえ方がある。地域という言葉としては良いが、実態として具体的な施策をする前は、そのあたりを十分考慮してやらなければならない。地域には特定のスキルを持った人がたくさんいるので、そういう人を活用した関わり方ができる。</p> <p>子ども会のことだが、かなりの地域で子どもがいらないというのが実態なので、そこ</p>



をどのように考えて取り組むのかということも大切。

また、大人も子どもも一緒だが、ネット社会になってきてスマホや携帯が問題になってきている。この関わり方をどのように施策の中に取り込んでいくのか、ここが戦後、一番社会環境が変わったところだと思うので、親も子どもも地域もネット社会の中に入ってしまったというところに、大きな特徴というか問題があるという視点が案の中からは見えてこない。

それから、サブ理念に子どもと親の成長・発達とあるが、親の成長・発達となるとおかしき表現ではないか。この中で何が欠けているかということ、親としての人間形成をどうするかということが入ってきていない。親が子どもを教育するというのは間違いなこと、そういうことが本当は社会によって、教育の中で、やらないといけないことであろうが、その部分が欠落していると思う。欠落して社会人になっているということで、親の方にも問題があるということが、日本そのものの教育の中でもあまり触れられていないと思っているが、ここに一番大きな問題があるのではないかと思う。だから、子どもと親の成長・発達を支えるというところに、親の人間性のあり方や人格づくりとか、そういうものは入らないのか尋ねたい。

また、全般的に内容が暗い、明るい家庭とか夢のある家庭とかいう言葉が出てこない、家庭をどうとらえるか、ネガティブにとらえて問題があるというところから施策や理念が出発しているのではないか、いわゆる夢のある人間性豊かな明るい家庭を作るのだとか、そこに対してこういう子どもを育て、親の問題とかではなくて、ネガティブに家庭はだめだ、厳しい環境だという言葉が全体の中で貫かれていて、夢がない、明るさがないと感ぜられる。

肥後功一会長

当然、サブ理念1の成長・発達は、親にもかかっている。これは、親も成長・発達を促さなければならない時代であろうという認識のもとに、親の成長・発達という言葉がおかしいというよりも、むしろ、おかしき世の中になっているので、親側の成長や発達を促すということも含めて入っていると思う。

子どもの側は成長・発達で良いが、親の側は責任感とか、人格促進とかいう書き方が良いのではないかという指摘であった。

それと、同じ出雲市といっても条件は同じではなくて、人口が増えつつあるところもあるし、逆もある、それが昔と必ずしも一致しない。地区とか地域とか自治会とかいう言葉と結び付けるのに学校校区という言い方をすると馴染みが良いが、逆に保育所となるとそれを超えてのものが多いので、そのあたりの制度とどう言い現わしていくとか、今後少し議論になるかと思う。

出雲市だけの施策を考えると各地域や自治会との関係がとても難しいが、県になるとさらに難しい、国になるとどうして良いか分からないような状況。これは国

	<p>から下りてきている全体の話ではあるが、やはり出雲市の各地区の良さをどんどん作っていくためにどうしたら良いか、逆に、みなさんの足元から立ち上げるプランになっていかないといけない。今のところは、上から下りてきたようなプランを一律に流すという感じになる。ここからまさしくみなさんの足元の毎日暮らしておられるところからのプランにしていくという話になる。</p>
<p>子育て調整監</p>	<p>多くの意見をいただいた。これから施策の内容に入っていくので、それらを踏まえて見直しをかけ、提示させていただく。これから会議が続くが、修正したものを随時提示しながら良い形にもっていきたい。</p>
<p>板倉明弘委員</p>	<p>幼保部会と発達部会に入っているが、社会養護部会の報告を聞いて、こういう内容で詰めておられるのだなと聞いた。</p> <p>今日3回目で、常に頭の中は来年4月スタートというところから逆算で物事を考えているが、先般、文教厚生委員会で子ども・子育て会議について内閣府へ、また、認定こども園を実施している習志野市に伺って、いろいろな情報交換をしたところ。その中で、部会についても、本会議についても、具体的な事がこれからというところで、予算的な懸念の声もあったが、具体的な事を検討する中でかなり起こると思う。施設面だけでなくソフト面でもいろいろな制度があるわけで、認定こども園についても、幼稚園型とか保育所型とか幼保連携型とか地方裁量型とか、我々も内閣府の担当官から直接聞いて、これだけのいろいろなメニューがある中で決めていかなければならない。そこには当然、出雲市のおかれている保育所、幼稚園という現状があるので、それを具体的に、どのような形でまとめていくのか、不安は8月末までに何とかしなければいけないというスケジュールで、これに間に合うのか。また、秋以降、来年度に向けてそれぞれ保育所、幼稚園の募集も入っていくが、そういう中でどのような説明ができるのか、文教の委員の中でも、頭の中の整理がつかないところもたくさんある。そのあたりを、もう一度明らかにしていただきたいことと、既に第4回の日程が決まっており、それまでの間に各部会が開催されるが、いろいろな資料を早めに出していただいて、会議では具体的な議論をやっていくということも必要ではないかと思う。国の思いと、我々現場でこれから決めていかないといけない立場と、現場といっても保育所、幼稚園で担当しておられる方も大変だと思う。そういう中で、限られた時間、回数の中で、そういう案を作って実施していかないといけないということで、資料や事前のものも含めて、早めに出していただいて、遅れがないようにと思う。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>制度的な設計に関しては、国の後出しが厳しくて、つい数日前に公定価格の表を手に入れて試算をしているような状況。4回目に向けて資料の準備を早くということで、</p>

山岡清志委員	<p>事前に具体的に知らせてもらえば、もう少し実質的な議論ができるのではないかと いう指摘であったので、事務局にも努力いただきたい。</p> <p>学校関係者として参加している。きっかけも変われば家庭も変わるし、子どもも変わ ってきており、ご存じのように先生は怖くないというのが、子どもたちの実態では ないかなと思っている。それでもやはり学校としては小学校の場合、3年生までのと ころで学習をきちんとしないといけない。そこでしっかりやっておかないと高学年や 中学生では手遅れになるという実態があると思う。今はいろいろな子どもがいて、特 別な支援を要する子どももたくさんいて、1年生で45分の授業が難しいところもあ るが、そういう実態に対して、市でスクールヘルパー制度を設けている。</p> <p>また、出雲市の場合9年目になる地域学校運営理事会も軌道に乗ってきて、メンバ ーは地域を代表される方等で、お願いすれば学校にボランティアで入っていただい ている。とにかく学校だけでは限界のところがあるので、一緒になって今後取り組んで いかなければいけないかなと思う。</p>
野々村学委員	<p>先ほど言われた親の教育のことなど同感である。金銭的な手当が親のことに使われ るなど、やはり親の教育の必要性があるということだろうか、いろいろなところで話 を聞く中で実態としてはっきりは分からないが、給食費を払っていない親がいると か、ラジオ体操に出なくても良いと言う保護者がいるということなど、驚きである。</p> <p>親の教育は、勤め先の経営者にしかできないのではないかなとも思ったりする。私の 会社では、経営者から地域のことに協力するよう指導されている。消防団への参加、 町内会への加入など、経営者の声は従業員にストレートに伝わる。市役所から各経営 者に社員教育を徹底してとは言えないと思うが、親を教育するのは勤め先の経営者な どに頼らざるを得ないところもあるのではないかな。</p>
肥後功一会長	<p>企業内教育は重要であると思う。企業全体でそういう雰囲気を作るとするのはとて も大事で、子どもが病気の時に母親が仕事を休みやすいつながることなのでと ても重要なところ。職場環境やワークライフバランスの話なども、今後関係してくる。</p>
高橋良介委員	<p>子ども会が成り立たないとか、町内会が成り立たないということに関連して、う ちの会社の組合でも組合活動に参加しない現状があり、どうやったら参加してもらえ るか、若い人を呼び込もうということで、執行部を全員若くするとか、リクレーショ ンをするなど、いかに情報を流すかという活動をしている。地域となると難しいと思 うが、そういう情報を広げるというのが重要ではないかなと思う。</p> <p>子育て支援では、いろいろな支援をみんなが知っているのと役にたつし、相談が大事、</p>

肥後功一会長	<p>親は本音で学校の先生と話ができないので、本音で聞いてもらえる環境が必要。</p> <p>まだ先は長いが、具体の第4章の案も見えていただきながら進めていきたい。</p>
事務局	<p>(3) その他</p> <p>①7～8月に各部会を2～3回開催、8月28日(木)の9:30から第4回子ども・子育て会議を開催する。その後、10月にパブリックコメントを予定している。</p> <p>②本日の会議録は、会長の確認を受けたうえで各委員へ配付するとともに、市ホームページで公開する。</p>
肥後功一会長	<p>以上で、進行を事務局に返す。</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>長時間にわたり審議いただき感謝する。今後の一層の協力を願う。以上で本日の会議を終了する。</p>